

# トップに聞く⑥ 株式会社コンテック

代表取締役 会長 窪田 昭治 氏  
取締役 社長 太田 徳雄 氏

平成元年に設立。計量・選別・充填・搬送等の機械設備を製作し、道内外の農水産食品加工会社等へ販売。エレクトロニクス技術とメカニカル技術、さらにコンピュータを融合させた複合技術を駆使し、企業の生産工程における自動化・省人化ニーズに貢献。今回は、現場とのキャッチボールから生まれる製品開発や、北海道へのこだわりや思いについて、会長と社長にお伺いしました。

代表取締役会長 窪田 昭治 氏



窪田昭治氏は江別市出身。旭川工業高等専門学校を卒業後、本州の機械メーカーを経て、平成元年に株式会社コンテックを設立、代表取締役に就任。

## 会社概要

企業名：株式会社コンテック

住所：札幌市白石区川下2168-32

TEL：011-875-5522

E-mail：info@contec-do.co.jp

創業：平成元年11月

事業内容：各種設備の設計、製造、販売

- ・重量計量設備、組合せ計量設備、計量充填設備
- ・整列、判別、計数、検査、仕分け装置
- ・原料供給ライン、搬送ライン、包装ライン

◆平成26～29年北洋銀行「ものづくりテクノフェア」に出展

◆平成27年北海道「食品加工機械展示会」に出展

◆平成28年度北洋銀行ドリーム基金に採択

北海道には小型で、応用の利く機械が必要

—法人設立の経緯や、方針などについてお聞かせ下さい—

会長：私は学校卒業後、本州の会社で機械の設計に携わっていましたが、自分で機械設備の設計・製造を行いたいとの思いで、平成元年に北海道に戻ってきました。そして、本当に多くの皆様から物心両面にわたる暖かいご支援・ご協力を頂く中で、何とか当社を設立することができました。

設立当初は、計量機メーカーからの依頼による製品づくりが中心でしたが、なかなか思うように仕事が来なかったり、また、逆に仕事はあるものの人手不足で十分にお客様の要望に応えられないなど苦勞したときもありました。しかし、お取引先の皆様のお蔭により、何とか乗り越え、水産関係での魚の選別機、サケフレークの充填機等の設計・製造など、少しずつ道内企業の皆様に喜んで頂ける「ものづくり」を進めてくることができました。

長年、仕事をしてきた中で感じることは、当社で製造する様々な機械設備は、全てが現場の声から生まれたということ。そして、道内では、特にコンパクトで汎用性の高い機械が求められており、また、それが中小企業の多い北海道の実態にも合っているということで、私自身も、常にこのことを頭において、機械設備の設計・製造に取り組んでいます。

## 主力製品のひとつ・コンパクトグレーダー

\*バケット部に製品を載せるだけで、重量を計測しランク選別を行う機械



- \*最高能力 140個/分
- 50アイテムのメモリー可能
- \*スピードは7段階に切替可能で、場所を取らず移動も簡単

### —販路等の営業基盤はどのように確立されていったのでしょうか—

会長：私は技術屋なので営業等あまり得意ではありませんでしたが、設立当初から現・太田社長とお付き合いがあり、現場のお客様ニーズを提供して頂きました。

以来、二人三脚で、現場のニーズを汲み取り、それを的確に設計・製造に反映させて、お客様の要望に沿った機械設備を作ろうと心掛けています。

社長：当時の思い出として、お客様の現場に入り、人の配置、動線、省力化したいことなどを伺い、現・会長のところへ検討案を持っていくと、全否定（笑い）の上で、問題点や改善点をアドバイスされ、お客様に再提案すると非常に喜ばれたことが強く記憶に残っています。

今もそうですが、私も一度現場に入っている以上は、お客様の立場に立って開発サイドと真剣に議論します。こうした現場と開発側のキャッチ

ボールがとても大切だと実感しています。また、機械設備の製造の前には、試作品を作ってお客様に見てもらっていますが、実際に見て・触れて頂くと、必ずと言っていいほど予想外の要望が出てきます。それを乗り越えて、喜ばれる機械設備になる訳です。

## 取締役社長

太田 徳雄 氏（写真・左）



写真・右は、窪田会長

### 機械設備の製造は、「効率」から「安全」へ

#### —時代の変化の中で、技術的に大きな転換点を迎えるような事はありましたか—

会長：技術的なことでは、やはりPL法（製造物責任法・平成6年）の施行や、異物混入事案の発生、従業員の安全確保などが話題となった20年ほど前から、機械設備製造の視点が大きく変わりました。

以前は、経済性というか、効率や使い勝手というものが重視されていましたが、PL法の施行等で、異物混入のリスクがないとか、従業員の皆さんが怪我をしないとか、商品や働く方の「安全第一」が基本的な考え方となりました。

また、安全であるということに加え、「衛生的」であることや、「メンテナンスのし易さ」ということも大切です。例えば、工具等を一切使わ

ないで機器を取り外せ、洗浄できるような構造にすることなどが求められています。

このようなことを背景に、当社ではHACCP対応や、洗浄・衛生面を考慮した柔軟性のある生産システムづくりでも、お客様のお手伝いをさせて頂いています。

コストは変わらず、求められる機能は高くなっていますが、その中で頑張ってきたことが、お客様からの「信用」、「信頼」に繋がっているのだと実感しています。

#### 缶詰の充填機

＊一度に4ラインでの缶詰充填が可能



＊最高能力 160個/分

—機械設備の販売構成の変化などはありますか、また、新分野への進出などについては、どのようにお考えですか—

社長：販売構成の流れでは、会社設立当初から「水産物」や「食品加工」がメインとなっていますが、ここ数年は「農産物」の仕事も頂いています。

お客様でJA関係の仕事も頂くようになっており、製品開発のベースも、「濡れもの」から「土もの」へと広がりがつあります。

今年の決算見込みでは、「水産物・加工品」と「農産物」の売上割合は、概ね9対1ですが、今後は五分五分くらいになると考えています。

会長：農産物設備の設計・製造に当たっては、取

り扱う商品が異なることもあり、従来の「小型・コンパクト」な設備から、より「大型」なものへと、また、機能もより「シンプル」、そして、「安価」なものへと、求められるニーズも変わります。

当社としては、お客様のこうした新しいニーズにしっかりとお応えできるよう、より大型な設備が製造できる場所を確保するため、来年4月の工場移転に向けて、現在、準備を進めているところです。

#### 農産物の箱詰め・梱包機械の試作品



会長：また、新分野への進出とは言えませんが、工業試験場とお付き合いをしている中で、「北海道医療福祉産業研究会」(企業・大学・試験場など16団体で構成)に参加をさせて頂いています。

私自身も入院したことがあり、実体験として、これは患者さんにとって大変、看護師さんにとって大変と思うことがあったので、研究会の場などを通じて勉強をさせて頂き、今後、「医療・介護分野」などでも、お手伝いが出来れば良いなと考えています。

#### お客様の省力化・省人化の取組みを応援

—製造業でも人手不足が大きな課題となっていますが、御社の状況や、お客様の声は如何でしょうか—

**社長：**当社でも人手不足であり、厳しい環境の中ですが、若い人については常時募集をしています。一方、最近では水産加工に加え農産加工関連の仕事もあることから、水産業や農業関係のお仕事に従事されていた経験者、また、当社は定年制がないので退職者の方も含めて幅広く採用しています。

新卒者の育成は、とても大切であると考えており、様々な部門を広く経験してもらいます。人間は勉強をしないと進歩しませんし、自分に合う分野・部門が見つかる、会社を辞めることなく、部門移動で働き続けて頂けるという思いもあります。また、多様な分野を経験する中で「仕事の応用力」も身に付くものと考えています。

#### 整理整頓が行き届いた工場内



**会長：**こうしたことに加え、当社では本当の現場を知ってもらうため、「モノ」が流れている実際の現場を見せたり、お客様の意見を伺ったりするほか、他社の工場なども見せて頂き、良いところは当社でも採用しようと社内で話し合いをしています。新人のみならず中堅社員も含めて、職員全員が成長できるよう、人材育成や働きやすい環境づくりに努めています。

**社長：**お客様からは、「全自動化するのではなく省人化したい」、「商品アイテムの変更がし易い機械設備が欲しい」との声を頂いています。

増産や他の仕事のために、省力化・省人化を図

りたいということですので、現場にお邪魔して、人の配置、生産ラインの流れなどを把握し、コスト面も考慮して解決案をご提案させて頂いています。例えば、食品会社等では、「新商品づくり」に取り組んだり、「介護食」にトライする際、「工場の規模や従業員数は変えずに、今いる従業員のシフトで、生産するアイテムの変更・拡大を行いたい」というニーズを強く感じます。当社も、機械設備の提案を通じ、お客様の会社のステップアップに向けた基盤整備の一助になれば幸いと考えています。

#### 技術系の人材流出～若い人は夢を追いかけるもの～「面白い」と感じる仕事が必要

—技術系の若者流出などには、どのようにお考えになっていますか—

**社長：**社会経験が少なく、就職を目指す学生さんが、本州の大手企業を希望される気持ちは良く分かります。やはり、自分の夢を実現したいとか、大きな会社で活躍したいと思うのは自然の理とも考えます。

**会長：**そうですね。若い人には、一度本州等で就職をしてもらい、描いていた夢や理想と現実を体験してもらうことも大切と考えます。

そうした中で、やはり歯車の一つとして働くのではなく、「自分でもう少しやりたい」という気持ちをもって北海道に帰って来て頂ければと思っています。仕事に関しては「これは面白い」と感じないと続かないし、良い仕事もできないと思っています。

近年は、道内でも6次産業化の動きが活発化しており、もう少し時間がかかるかも知れませんが、昔のように原料供給の基地ではなく、関連する加工やブランド化などの取組みが広がってきています。一生懸命に頑張っているJAさんでは、農産物に付加価値を付け、更には観光とのタイ

アップなどもやっているケースもあります。例えば、十勝の枝豆などは、農家さんも儲かり、JAさんも大規模な設備投資を行っています。知名度もアップし、ブランド化されて日本一となっていますよね。こうしたところでは、多分、働いている若い人も、仕事が「面白い」と感じているのではないかと思います。

当社としても、こうした取組みを応援していくことが、若者の流出防止につながるものと考えています。

#### 会社の将来像は、 ニッチでも「No.1」を持つ企業へ

―来年は設立から30周年を迎えますが、会社の将来像について伺います―

社長：小さな分野で良いので、日本一を持つ企業を目指していきたいですね。現状でも、サンマの計数箱詰機やサケフレークの充填機は、生産している地域が狭いこともあり、ほぼ日本一ではないかと思っています。

この先も、この分野では「当社が、日本一です

#### 主力製品のひとつ・サンマカウンター

\*バケット部にサンマを並べるだけで、  
尾数を計測し箱に投入する機械



\*最高能力 350尾/分  
12~99尾まで計数可能

よ。」というものを持った企業になっていければと考えています。また、今、お客様が一番困っている異物混入などの安全・安心の面、例えば、目視という人手に頼っている部分の省力化など、「この分野では、どこにも負けないよ。」という強みを作っていければと考えています。

―アジア等からの外国人観光客の増加や世界での日本食ブームなどもあります。海外展開などについては、どのようにお考えですか―

会長：今のところ、道内でやれることがまだ沢山あるので、海外展開より、北海道に寄り添った形で仕事をしていきたいと考えています。

北海道の場合、地域産業の基盤となる農業や水産業が儲かって、関連する企業等が増えていけば、若い人もきちんと暮らせ、自然に人も残っていくのではないかと考えています。

今後とも、農業や水産業、関連する加工業等の皆様が元気になってくれるよう、当社としてもしっかりとお手伝いしてまいりたいと考えています。

#### 会長・社長の“二人三脚”は続きます



(田邊 隆久)